

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0471200303
法人名	特定非営利活動法人 快
事業所名	グループホーム快 豊里
所在地 (電話番号)	宮城県登米市豊里町新田29 (電 話) 0225-79-2077

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 9 月 16 日

【情報提供票より】平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 1 月 24 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7.3 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/○改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 85 歳	最低 77 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	登米市豊里病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型サービスとしてのグループホームの役割を果たしていくための課題を理解している。これまでの理念の「愉快な暮らし」に添って「快適」「快い生活」のために入居者が笑顔で生活できることは自分達も笑顔でいることと、職員は他のグループホームでの研修を通して改めて思ったという。職員が定着してきており、外部研修にも意欲を持ち、同業者との連携の大切さを感じている。法人として同業者のネットワークへの加入も考慮していただきたい。運営推進会議を通してメンバーでもある町内会長の理解を得たことは大きく、地域の高齢者の相談を受けることもある。入居者に感謝の言葉をかけてもらうこともあり、時には叱られ、家族の思いも汲み取り支えていこうとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前々回の要改善事項は少しずつ改善されてきているが、地域密着型になってからのサービス評価は初めてである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、カンファレンスの時など職員の意見を聞きながらまとめたものである。日々のケアを振り返るきっかけになったという職員の言葉も聞かれたが、全職員で取り組んだとはいいがたい。評価のねらいを確認し、評価の過程を通じて質の確保・向上につなげていく取り組みを期待したい。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の案内は全家族に声がけし、全員参加とはいかないが、来訪の少なかった家族の参加も得られた。市と地域包括支援センターの職員、町内会からは正・副会長、大家さんの参加のもと、地域との繋がりが深まったことを感じている。ホームからの状況説明や、敷地内の整備の要望・家族が参加できる行事の開催など、メンバーそれぞれの立場からの意見が出される。基準省令にあるように、メンバーとして入居者の参加もお願いしたい。今後も成果ある会議になるよう期待したい。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月の家族への報告は職員の一言も添えられ、「滞り状況報告書」で詳しくなされ、ホーム便りも工夫された紙面になっている。面会時には必ず声をかけ意見を聴いている。これまで苦情はないが、外出や薬のこと、笑顔で暮らして欲しいなどの要望が聴かれた。運営推進会議で出された家族が参加できる行事の開催は是非実現していただきたい。要望などあまりない家族に対しての働きかけは今後の課題であろう。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の敬老会やカラオケ大会などに参加し、月に一度の川沿いの草取りにも参加している。ボランティアは踊りや草取り、職員を通じて来訪してくれることもある。今後、保育園や学校との交流も積極的に進めていただきたい。今年に行われなかったホームでの流しそめんは、地域の方から残念がられた。断水の時に近所の井戸水の提供、災害対策に関しても協力の申し出があり心強い。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に作成された理念はあるが、地域密着型サービスとなってからの見直しは行われていない。	○	地域密着型サービスの意義を考え地域とどう関わっていくのか、自分たちが目指しているもの、ホームとしての役割など全職員で話し合い、これまでの理念に加えていただきたい。そして利用者、ホームの状況の変化、地域のニーズに合わせた見直しを、1年に1回以上行っていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りの時など理念について触れ、理念にそったケアができていくか振り返ることもあった、意識づけがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の敬老会や文化祭、カラオケ大会などに参加し、月に1度の川沿いの公園の草取りなどに参加している。ボランティアは踊りや草取り、職員を通じて来訪してくれることもある。今後保育園や学校などとの交流も視野に入れ、更に積極的に取り組んでいただきたい。今年も行われなかったホームでの流しそうめんは、地域の方から残念がられた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はカンファレンスのときなど職員の意見を聴くなどしてまとめた。日々のケアを振り返るきっかけになったという職員の声も聞かれたが、全職員で取り組んだとは言いがたい。昨年サービス評価を受けなかったことも踏まえ、事業所の質の確保のためにも全員で取り組むことを期待する。	○	法人としてもサービス評価のねらいや活用を今まで以上に理解し、自己評価を行う一連の過程を通して全職員の気づきから、質の確保・向上につなげられるよう取り組んでいただきたい。見出された課題についても改善計画を立てるなどして、具体的に活用していただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーでもある町内会長の理解を得て、地域とのつながりも深まってきた。全家族に声がけし、全員参加とはいかないが来訪の少なかった家族の参加も得られるようになった。ホームの敷地内の整備や家族が参加できる行事についてなど、メンバーそれぞれの立場からの意見や要望が話し合われる。サービス評価の結果についても報告し、改善への取り組みをモニタリングしてもらいたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに市から2名の参加があり、ホームの現状は理解されている。今後更に地域密着型サービスとしての役割を行政と共に担ってゆくために、ホームからの働きかけを積極的に行い、職員が受講したキャラバンメイトの活用など、共に取り組んでいただきたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	医療の留意点・日夜の様子・食事・移動・排泄・着脱に至るまで記載し、職員の一言も添えた「滞在状況報告書」を送付している。毎月発行されるホーム便りでは、ドライブや行事、運営推進会議の案内などもなされ、面会時にも日頃の様子を伝えている。金銭管理は行っていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や運営推進会議に出席したときに、個別に意見や要望を聴く機会を持っている。苦情はこれまでなかったが、相談・苦情を表わすことができることを、繰り返し説明していただきたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで職員の交替によるダメージがなかったということである。しかし以前に比べれば職員の離職は少なくなってきたとはいえ、入居者との関係を築く大切さを考えれば、職員の定着に向けた努力が必要である。	○	馴染みの職員が入居者の生活を支えていくことは、家族にとっても安心につながる。法人として入居者との馴染みの関係の重要性を改めて考え、様々な事情はあると思うが、離職を最小限に抑えるための検討をしていただきたい。
。					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員参加の月2回のカンファレンス時に内部研修を行う。外部研修の報告もその時行われており、職員の研修に対する意識も高くなってきたという。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のネットワーク会議に出席したり、他の事業所から勉強会の声がかかる。職員は他のグループホームの見学は、日頃のケアを振り返るきっかけにもなるという。更にサービスの向上のためにも同業者との横のつながりの大切さを考え、県や国のネットワークへの加入も検討していただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の実態調査や、本人・家族の見学などしてもらい、早く馴染んでもらえるよう家族の協力も得てバックグラウンドを把握し、それを職員間で共有することで入居者を支えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活において入居者から学ぶことは多い。ホーム便りにも「おばあちゃんの知恵袋」として掲載されており、戦争中の話に出てきた食べ物を作ることもある。時にはふとんの掛け方が悪いと叱られたり、「お手伝いをさせてくれてありがとう」と感謝の言葉をかけてもらうこともある。方言での会話は距離感が縮まるという。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを汲み取ることは職員の力量でもあり、努力をしていることは職員のヒヤリングからもうかがえた。その他、家族から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	なにげない会話のなかから汲み取った本人の思い、家族との話し合いで要望を出してもらい、介護計画に反映させている。その話し合いで同意を得て、コピーを渡している。家族に十分説明がおこなわれていることは、家族アンケートからもうかがえる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成担当者が交代し、書式変更も行い改善の途中である。モニタリングに基づいた評価を行っての見直しは以前行われていたが、現在確実に定期的な見直しは行われていない。	○	家族が面会に来た時に要望など聴き、ケアに反映させるようにしているが、職員の状態も安定してきたところなので、介護計画の遂行状況・効果の評価を行い、必要に応じてきめ細かな見直しを行っていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医への通院は職員が付き添い、外泊に対しても支援を行っている。今後外出に関しても、更に入居者の希望に沿えるよう検討していきたいとしているので期待したい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が通院に付き添う時にはサマリーを渡し、先方の医師からは所見を貰う。協力医療機関の訪問看護センターの看護師の訪問が週1回あり、様々な助言が得られることは心強い。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化・終末期ケア対応指針同意書」を作成し、サービス担当者会議において説明を行い、同意を得ている。看取りまではまだ行ったことはないが、職員のスキルアップも必要なことは十分認識しており、入居者の状態・家族の状況の変化をみながら、話し合いを積み重ねていっていただきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の声がけなど、プライバシーを意識した対応を心がけ、記録は入居者の目に触れないところで行われている。「個人情報使用同意書」を作成し、同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間を区切った過ごし方はしておらず、入居者それぞれのペースで暮らしていけるように支援している。入浴や外出なども本人の希望を聞き、それでよいのか家族にも確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は入居者と共に行うが、新鮮な野菜の差し入れも多い。自ら進んで手伝って下さる方もおり、後片付けも茶碗拭きなど職員の声かけて一緒に行っている。昔食べたものがリクエストされることもあるという。職員も同じテーブルを囲み、介助しながらも和やかな食卓である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日希望を聞きバイタルチェックを行い、入浴できるよう支援している。拒否する方には相性のよい職員が声がけしたり、それでも駄目な時には、足浴で対応している。入浴できない場合には就寝前清拭を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自ら進んで洗濯物をたたんだり、調理の手伝い、おしぼりたたみ、食器ふき、ごみ箱に入れる袋作りなど定着してきた。他の入居者のやっていることを見て、一緒にやり始める方もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日帰りで温泉に出かけたり、ドライブに誘うなど、気分転換をはかれるようにしている。日常的には散歩や外気浴、時には近所の商店に買い物に出かける入居者もいる。外出については身体状況もあろうが、今後も積極的な支援をお願いしたい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は天気がよければ玄関の戸は開け放しており、自由に庭に出て寛いでいる。不意の外出があった時など近くに駐在所もあり、近所の方たちに見守られていることを感じたという。不穏になった時には気分が落ち着くように話をじっくり聴くように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の地域の協力の申し出はあるが、今年度は災害に備えた避難訓練を行っていない。非常用の備品・食料は準備している。	○	いつおきるか分からない災害に対する訓練は、夜間想定も含め定期的に最低年2回行い、職員体制が変わればその都度考えていただきたい。地域・消防署の協力を得て、早急実施していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を記録し、水分の摂取量もおおよそ把握している。献立は食事担当の職員が立てているが、栄養士や保健師などの専門的な観点からの指導は行われておらず、体重の増減などのチェックも意識して行っていただきたい。	○	体重の減少が見られた方がおりヘルスマーターを用意したことなので、毎月1回以上は体重測定を行っていただきたい。そしておおまかに一人ひとりが摂取したカロリーを把握することも大切なことなので、1～3ヶ月毎に専門的な観点から指導や助言をいただき、献立作成に役立てていただきたい。
、					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前割烹料亭だった建物を改築したもので、ソファを置いたり、玄関にスロープを付けたりと、入居者の使いやすさを考慮している。入居者と共に作成した季節を感じさせる絵柄の大きな貼り絵があり、季節感を意識的に取り入れる工夫もなされている。畳の部屋で洗濯物をたたんだり、生活の場として過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持込の少ない方もいるが、たんすやテレビなど持ち込まれ、入居者それぞれの居室になっている。		